

授業科目	日本語教育方法論演習Ⅱ				単位	2		
履 修	選択	関連資格	日本語教員		ナンバリング			
開講年次	2	開講時期	後期	該当DP	DP3-1 DP4-1 DP4-2			
担当教員	溝部 エリ子							
授業概要	学期はじめは、授業観察の仕方を学ぶ。その後、教科書分析、教案作成の仕方を学ぶ。その上で、学生が互いに教師役、学習者役に分かれて模擬授業(マイクロ・ティーチング)を行う。教師役は学習者、学習レベル、学習時間などに考慮して教案及び補助教材を作成し、特定の学習項目を教える。学習者役は学習者になりきって模擬授業を受けることで、学習者の心理を擬似体験する。それぞれの立場から模擬授業を評価し合うことで学びを深めていき、来年度の実習に備える。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教材の分析ができる。 2. 教案を作成し、実際に授業をすることができる。 3. 授業を客観的かつ多角的に観察・分析することができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	30	30	20	20	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			30				30	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)				30	20		50	
態度(DP4-2)						20	20	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
学んだことを、自分のことばで他の人に分かりやすく説明できる。				<ol style="list-style-type: none"> 1. 教材の分析ができる。 2. 教案を作成し、実際に授業をすることができる。 3. 授業を客観的かつ多角的に観察・分析することができる。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション、授業観察1			講義・演習		復習: 該当部分の復習		60

	授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。日本語学校での授業を観察し、コメントし合う。			
2	授業観察2 大学レベルでの日本語授業を観察し、コメントし合う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
3	教科書分析1 教科書分析の具体的方法を学ぶ。 市販の教科書(SFJ)を分析する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
4	教科書分析2 市販の教科書(みんなの日本語)を分析する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
5	教案作成1 「みんなの日本語」を教材とした、教案を作成する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
6	教案作成2 学生 A グループが作成した教案を共有し、コメントし合う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
7	教案作成3 学生 B グループが作成した教案を共有し、コメントし合う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
8	マイクロ・ティーチング1 授業担当者 A が、他の学生を相手に模擬授業を行う。授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
9	マイクロ・ティーチング2 授業担当者 B が、他の学生を相手に模擬授業を行う。授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
10	マイクロ・ティーチング3 授業担当者 C が、他の学生を相手に模擬授業を行う。授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
11	マイクロ・ティーチング4 授業担当者 D が、他の学生を相手に模擬授業を行う。授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
12	マイクロ・ティーチング5 授業担当者 E が、他の学生を相手に模擬授業を行う。授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
13	マイクロ・ティーチング6 授業担当者 F が、他の学生を相手に模擬授業を行う。授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
14	マイクロ・ティーチング7、まとめ 授業担当者 G が、他の学生を相手に模擬授業を行う。授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。 この授業のまとめを行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
15				
16				
17				

18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	日本語教育方法論 I、II 及び日本語教育方法論演習 I で学んだこと。			
テキスト	『教案の作り方』アルク(2016)、『みんなの日本語初級 1 第 2 版 本冊』スリーエーネットワーク(2012)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『みんなの日本語初級 1 翻訳・文法解説英語版』スリーエーネットワーク(1998) 『日本語教師のためのアクション・リサーチ』横溝紳一郎(凡人社)(2000) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上巻』川口義一・横溝紳一郎(ひつじ書房)(2005) 『ドリルの鉄人』横溝紳一郎(アルク・オンデマンド)(1997) 『クラスルーム運営』横溝紳一郎(くろしお出版)(2011)その他			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	1. 今までに学んだ日本語教育に関する知識を実際に運用してみる授業です。 2. 授業を通して、日本語教育・教師・学習者に関する気づきを深め、「異文化間教育としての日本語教育」に対する理解を深めてほしいと思います。			
達成度評価に関するコメント	「達成度評価」の「その他」は、授業への積極的参加とする。 積極的参加(20%)、教案作成(20%)、マイクロ・ティーチング(30%)、期末レポート(30%) 欠席 1 回につき、「出席を含む授業態度」が 3 パーセントずつ減点されます。欠席 5 回で自動的に不可となり、遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とみなされるので、正当な理由があり欠席・遅刻・早退する／した場合は、必ず届け出ておくこと。			

